

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook 等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」関西訴訟(大阪地裁)第9回期日(20210924)提出の書面です。

## 陳 述 書

2021 (令和3) 年9月3日

大阪地方裁判所 第11民事部合議1係 御中

氏 名 坂田 麻智

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook 等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」関西訴訟(大阪地裁)第9回期日(20210924)提出の書面です。

## 第1 はじめに

私は、42歳の会社員で、同性のパートナーである Stieger, Theresa Evelyn (以下、「テレサ」といいます。)と12年間交際しており、その内現在までの約11年間は同居して共に生活をしています。

私は愛媛県で生まれ育ち、高校卒業後にアメリカに留学して現地の四年制大学を卒業しました。卒業後は、日本の電機メーカーに就職して、以来、同社で勤務しています。職場では部材の調達を担当する部署にいます。

私には愛媛県に住む母親と、福岡県に住む姉がいます。

## 第2 性的指向の自覚と周りへのカミングアウトについて

### (1) 最初の自覚

私のはっきりと自分が同性に惹かれることを自覚したのは、16歳、高校2年生の時でした。当時、同じ学校にとっても好きな女の子がいて、それが恋愛感情だと気付きました。ただ、今思い返すと、小学校の高学年くらいから既に同性に惹かれていたと思います。しかし、当時は、同性に恋愛感情を持つことを自分自身が想像していなかったのもそれに気付かなかったのだと思います。

高校2年生の時に好きになった女の子とは1年くらい付き合っていました。好きになった子と付き合えて嬉しく思っていたのですが、二人の関係については漠然と「この関係は他の人には言っはいけない」と思っていて、実際、当時は誰にも言いませんでした。彼女とは同じ部活動に所属していたのですが、高校3年生の最後の試合前に彼女が盲腸炎になって試合に出られなくなったことがありました。その時、彼女は私に対して「あなたとの関係をしているから、その罰が当たったんだ」と言い、私はそれがとても悲しかったです。高校卒業後、彼

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook 等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」関西訴訟(大阪地裁)第9回期日(20210924)提出の書面です。

女とは遠距離恋愛になってしまい、別れる結果になりました。

## (2) 大学生のころ

アメリカに留学中には何人かの女の子と付き合いしました。自分が通っていた大学では、LGBTQが大学にどれくらいいるかの統計等もとっていて、確か1割程度だったと記憶しています。しかしそれでも、当時のレズビアンのイメージは偏っていて、たとえば映画やテレビドラマに出てきたレズビアンは精神的な病気と描かれていたり、アメリカではオープンなレズビアンは男性っぽい感じの人が多くて自分とは違うなあと思っていました。自分自身でも、自分の性的指向を受け入れることにまだ抵抗があったのだと思います。そのため私は、自分はレズビアンではなく好きになったこの子が好きなんだと考えるようになり、周りに性的指向を伝えるときも「女性と付き合ってる」とか「バイセクシュアルである」と言って、「レズビアンである」「同性愛者である」と明言することを避けていました。

## (3) 社会人になってから

就職と共に日本に帰国しましたが、帰国後は社会人という立場から、学生時代よりも性的指向をオープンにすることがより難しいと感じることが多くなりました。同僚と私生活の話をしていると、相手に悪気がなくても彼氏はいるかと尋ねられたり、みんな当たり前のように男女が前提の結婚の話をしたり、子どもが生まれた時には女性が会社を辞めることも多く、そういう話を聞いていると自分には当てはまらないなと感じていました。社会人になってからも恋人はいましたが、私の恋愛対象が男性であるという前提で周りの話が進むので、なかなかそれを覆して話すこともできず、本当のことを話す相手を選ばないといけないと感じていました。就職後しばらくは会社の寮に入っていて、そこには私のように海外の大学に留学していた人たちもいたので仲良

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook 等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」関西訴訟(大阪地裁)第9回期日(20210924)提出の書面です。

くなる中で、その人達にカミングアウトしました。

今思い返すと、自分の性的指向を会社の人たちに伝えることによって、仕事で良い結果を出したとしてももしかするとそれが帳消しになったりマイナスに評価されたりする可能性があるのではないか、仕事の出来よりもセクシュアリティでレッテルが貼られてしまうのではないかと自分自身が考えており、周りに言うにしても仕事ができるようになってからにしたいと考えていたのだと思います。

### 第3 パートナーとの関係、現在までの生活について

#### (1) パートナーとの関係

パートナーのテレサとは、2008年7月に共通の友人を通じて知り合いました。知り合ってから約3ヶ月後の同年10月から付き合い始めて、翌年6月から一緒に住むようになりました。今年の10月で付き合い始めて丸13年になります。

共通の趣味はキャンプ、山登り、スノーボード等のアウトドアアクティビティや国内や海外での旅行です。新型コロナのために、最近ではアウトドアも旅行も中々難しいですが、以前は連休があれば必ず国内旅行（観光目的のこともあればアウトドアのときもあります）と年に一度は海外旅行にも行っていました。これまで、アメリカ、スペイン、フランス、スイス、オランダ、ドイツ、タイ、台湾などに一緒に行きました。その他、共通の友人たちとホームパーティを開いたりすることも多いです。

2013年に、京都で古い町家を購入し改修工事をして、現在までそこで一緒に住んでいます。

2015年8月9日、私とテレサは、テレサの出身地であるアメリカのオレゴン州で婚姻して、披露宴も行いました。また、同年10月

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook 等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」関西訴訟(大阪地裁)第9回期日(20210924)提出の書面です。

には京都市内でも結婚パーティを開いて、アメリカで婚姻したことを日本の知人にも祝ってもらいました。

同年12月にはロージーという名の犬を知人から引き取って、以後、家族の一員として暮らしています。

## (2) 結婚の際のエピソード

結婚指輪は日本の百貨店で購入したのですが、その時のことを少しお話しします。百貨店にはブライダルクラブという結婚が決まっている人のための会員制の割引制度があるのですが、私たちはある百貨店でブライダルクラブに入会して結婚指輪を買おうと思い、入会カウンターを訪れました。私とテレサがカウンターの受付の方に結婚予定で入会したいことを伝えると、受付の方は少し驚いた様子で「確認します」と言って別のスタッフに相談に行きました。すぐ近くだったので「女性二人なんですけどどうしましょうか」と話す声が聞こえて、どうなるのだろうと少し不安に思いましたが、その後、上のフロアに案内されて、上司と思われる方に個別対応をしていただく形で入会手続きが終わりました。

その足で指輪の売場に行ったところ、カウンターで対応していた年配の男性販売員の方が商品を案内してくれました。その方には特に私たちの関係は説明しなかったものの、自然に指輪の試着を勧めてくれたり、私たちが同じデザインにするかそれぞれ似合うデザインにするか迷っていると「同じデザインがいいと思いますよ」とアドバイスしてくれたり、デザインが決まった後も指輪の内側に彫刻を入れるオプションについてスムーズに案内してくれたりして、とても嬉しかったことを覚えています。年配の男性だったのでむしろ私たちの方が少し心理的に構えていたため、大切な買い物の際にとっても自然に接してくれて感動したのを覚えています。

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook 等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」関西訴訟(大阪地裁)第9回期日(20210924)提出の書面です。

### (3) 日常生活での家事や経済的分担について

普段の生活で家事の分担は半々くらいです。料理は、朝がテレサ、昼は仕事なので各自取って、夜は私が在宅勤務の日は私が作る、お互い出社している日は外で買って帰るなどしています。夜ご飯をどちらが買って帰るか、帰宅が何時頃になるか等についてはいつも携帯電話でやりとりしています。掃除に関しては、お風呂やトイレはテレサが掃除することが多く、洗濯物やキッチン周りの掃除、その他整理整頓は私がすることが多いです。その他、色々な家事の分担について、お互いただ期待するだけではなく、どういうことを自分がしていて、相手にどういうことをしてほしいかをしっかりコミュニケーションを取るようになっています。

生活費も分担しています。日本で婚姻できないのでペアローンが利用できず、結果、自宅の名義が私のみになっているため、ローンや固定資産税は私の口座から引き落とされています。また、二人の共同の口座は作れないので、ローンと同額程度のお金を、テレサがテレサ名義の生活費用の口座に入れて、食費や水道光熱費、携帯電話料金等の生活費はそこから支払うようになっています。私の方が収入が多いので旅行のときは私が費用を出しています。それ以外は各自が自由に使って貯蓄もそれぞれがするようになっています。私は厚生年金、確定拠出年金、年金型の生命保険、株式投資、外貨預金等、将来のために色々貯蓄していますが、私が先に亡くなった時にテレサが相続できないのでその点を不安に感じます。仮に遺言書を作っても、テレサが法定相続人ではない以上、受けとるときに多額の税金がかかってしまうという問題があります。

### (4) 周囲へのカミングアウトについて

今の家に住み始めた直後、自治会の会合に参加したときに二人の関

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook 等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」関西訴訟(大阪地裁)第9回期日(20210924)提出の書面です。

係を聞かれましたが、周りはかなり高齢な方が多かったので咄嗟に「ルームメイトです」と伝え、その後は関係を聞かれることがなくなったのでこちらからカミングアウトするタイミングが見つかりませんでした。

しかし、数年前に京都新聞の取材を受け、地元の方の多くは京都新聞を購読しているのでそれを読んだ方たちが「新聞読んだよ」と話してくれるようになりました。また、この裁判や京都市のパートナーシップ制度のことで取材を受けたりして、近所のアパートの清掃の方や犬の散歩中によく会う方などから「テレビ見たよ」と声をかけていただいたこともあります。

#### (5) 母親へのカミングアウトについて

私は20歳くらいのころに一度母に女性が好きであることを伝えたことがあります。しかし、その時母は「若いし病気みたいなもんじゃないの?」と言っただけでした。そのような母の反応を見て、私はその後、母に対して恋愛に関する話題を持ち出すことができなくなりました。

しかし、2015年3月にアメリカでの婚姻を目前に控え、母に現地での結婚式と披露宴に出席してもらいたいという気持ちから、母に手紙を書きました。その中で、私がテレサと交際していること、アメリカでの式に出席してほしいことを伝えました。母から手紙の返事がなかったので、私は母に出席の有無だけでも教えてほしいと電話で伝えたところ、母は出席すると言って、アメリカまで渡航して私たちの式に参加してくれました。式の後、母は「頭では分かるけど時間がかかる」と言っていました。特に私たちへの態度が変わった様子はありませんでした。

ただ、母がLGBT関連の話題を自ら出すことはほとんどなく、私

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook 等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」関西訴訟(大阪地裁)第9回期日(20210924)提出の書面です。

たちの関係は受け入れてくれているけれど、セクシャリティの話は避けているような感じで、母の中でまだ咀嚼しているのかなと思っています。母の世代だと同性愛を病気だと考える価値観も根強いかも知れないですし、母が住む愛媛県の地元の方や親戚に相談相手もいないのだと思います。少し嬉しかったのは、今年の初めに京都レインボープライドパレードに行く日の朝、母から電話があって「今日パレード行くの？」と聞いてくれたことです。驚いたのと同時に母の中でも日々理解を深めてくれているのかなと思いました。最近ではテレビ等で性的マイノリティについてポジティブに報道してくれることが多いので、それも後押ししてくれていると思います。

#### (6) パートナーシップ宣誓制度の利用

2020年9月1日から、私たちが住む京都市でパートナーシップ宣誓制度が利用できるようになりました。私たちは事前に申し込みの予約をして、制度開始の当日に京都市のパートナーシップ宣誓制度の第1号カップルになりました。なお、同日の予約は20組ほどあったようです。また、今年の京都レインボープライドパレードの際に市長さんが既に58組が同制度を利用しているとおっしゃっていました。

パートナーシップ宣誓制度が開始される前日であった同年8月31日、京都タワーがLGBTの象徴である6色に順次ライトアップされるイベントが行われていました。そして宣誓の日、区役所には市長さんや役所の関係者の方々が沢山集まっていて、宣誓をした私たちを皆さんがにこやかな祝福ムードで祝ってくれて、とても嬉しい気持ちになりました。これが異性愛者にとっては普通のことなのかも知れませんが、単純に「祝福されるのってこんなに嬉しいんだ」と感じました。

この約1年8ヶ月前である2019年1月4日、私たちは京都市に対して婚姻届を提出しましたが、「不適法であるから、受理することは



【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook 等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」関西訴訟(大阪地裁)第9回期日(20210924)提出の書面です。

できない」と不受理になっていました。しかしその後、自治体の方たちが動いてくれてせめてパートナーシップ宣誓制度を利用できるようにしてくれたことにもとても感謝しています。宣誓は法的には婚姻には全く及びませんが、それでもやってよかったですと思えました。

#### 第4 現在の不安

以前私は、仕事でハードな時期が続いて心が疲れてしまいしばらく休職をしていた時期がありました。その時、私は自分自身に自信が持てなくなってしまうていましたが、テレサは私が何もできなかったとっていた日でも「あれできた、これもできた」「しんどいならやらなくてもいい」と言って、どんな私も肯定してくれました。そのようなテレサの支えがあって、私は徐々に回復し復職できました。このように、私たちはお互いを生涯のパートナーとして、慈しんで支え合って共同生活を送っています。

そして自分たちの生活ができるだけ安定するように、家を買ったり将来のために貯蓄したり、パートナーシップ宣誓制度もいち早く利用したりするようにしました。それでも、どちらかが病気になって特に意思表示ができないくらい重篤な状態になった場合には、パートナーが法的に家族関係にないことが原因で意思決定に携われなかったり、面会ができなかったりするのではないかと不安に思うことがあります。また、私が先に亡くなった場合、テレサは今の家の住み続けられるのだろうか、貯蓄を受けとることができるのだろうか心配しています。

私たちは子どももほしいと思っていますが、現状、婚姻している夫婦でないと精子提供を用いた人工授精が利用できません。また、仮に人工授精をせずに自分たちで精子提供者を探したとしても、私たちや子どもとの法的関係が守られていないので、簡単には踏み出すことができません

【有償配布 や Web(ホームページ, ブログ, facebook 等)へのアップロード・転載はお止めください】

【リンクはご自由にお貼りください】

「結婚の自由をすべての人に」関西訴訟(大阪地裁)第9回期日(20210924)提出の書面です。

ん。

## 第5 さいごに

私たちと同じ「結婚の自由をすべての人に訴訟」の札幌地方裁判所の判決では、同性婚を認める規定を設けていない現行法は憲法14条に違反しているとはっきりとされていて、判決の日、在宅勤務のお昼休みにそれを聞いた時、私は思わず泣いてしまいました。判決を聞いて泣くとは思っていなかったので自分でも驚いたのですが、それまでに当事者が何度も、何度も、差別だと言いつづけていたことが、公にも差別だと認めてもらえたことが本当に嬉しかったのです。

私はいつか誰も自分のセクシャリティで悩むことがなくなる社会になればいいなと思っています。現状は、性的マイノリティであれば差別をされ、制度上も守られずに、幸せになることはできないというレッテルを貼られてしまっているように感じます。しかし、どのようなセクシャリティでも、自分で幸せは作っていけるし、誰しも同じように生きていける。そのように皆が同じベースに立てる社会になってほしいと願っています。

大阪地方裁判所でも、私たちが婚姻できない現状は間違っている、私たちがこのような差別的な扱いを受け続けるべきではないときちんと認めてくれる判決が出されることを切に願っています。

以上